

東広島市・広島大学教育ビジョン研究センター連携 「広域交流型オンライン学習」2025年7月実施計画

1. 目的

広島大学と東広島市教育委員会が連携し、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「デジタル・シティズンシップ・シティ:公共的話合いのための学校」の理念に基づき、教室間にデジタル公共圏を構築するとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びを創造する。

2. 実施内容

- 全国の複数の中学校, 学習対象となる地域・施設がオンラインでつながって, 遠隔授業を行う。
- 遠隔授業の全体進行は, 大学の担当者(T1)が行う。各教室での指導は, 各学級の担任等(T2)が行う。
- 参加校には, 大学よりサポートスタッフ(T3)を派遣し, 環境設営, 授業運営支援, 教師・生徒のICTの活用支援等を行う。
- 遠隔授業では, 生徒が自分のタブレットから意見表明等で参加できる機会を設ける。加えて, 生成AIを活用した遠隔授業の支援システムも活用する。

3. 授業の日時および参加予定校

- 2025年7月10日(水)13:30~15:20
- 中学校3年生 計6校(7学級109名)
 - 1ch: 東広島市立志和中(2学級42名), 福富中(1学級10名), 豊栄中(1学級19名), 河内中(1学級26名), 洞爺湖町立洞爺中学校(1学級10名), 徳之島町立尾母中学校(1学級2名)
 - 2ch: 高美が丘中 SSR, 松賀中 SSR, スクール S, 島われんきゃハウス

4. 単元名および目標

- 単元名 「現代社会の見方・考え方 -より良い話合いはデジタルか, それとも対面か!?-」
- オンライン学習の単元目標

【知識・技能】	(1) 社会的な意思決定において, 話合いと合意形成が重要であることを理解できる。 (2) 民主的な社会における合意形成に向けた話合いの過程を検討する上で, 「効率」と「公正」の観点が重要であることを理解できる。
【思考・判断・表現】	デジタル化によって多様化する話合いの方法について, 自分の地域社会の状況を踏まえた適切な方法を考察し, 説明できる。
【学びに向かう姿勢】	デジタル化に伴う多様な合意形成に向けた話合いの過程について, 自分やほかのクラスの子どもたちと積極的に議論しながら検討し, 自分の地域社会の状況を踏まえたより良い合意形成を提案しようとしている。

- ・赤色:個人端末の活用場面 ・黄色:個別学級の活動場面 ・緑色:学級間の交流場面 ・青色:中継・動画
- ・★: AI 学習支援システムを活用した意思表示や学級の声のモニタリング場面
- ・発表の基本過程: 教師と生徒でやりとり→発表者を決める→カメラ前でスタンバイ→同じ答えが出たら戻らせる

○ 本時の目標

- ・1/2時: 合意形成に向けたより良い話し合いを考える際に、「効率」と「公正」について考えることが重要であることを理解する。【知識・理解】
- ・2/2時: より望ましい合意形成に向けた話し合いについて、「効率」と「公正」の観点から判断し、自分の意見を説明することができる【思考・判断・表現】

5. 授業展開

T1 (川口・草原)の動き	予想される生徒の反応(例)	T2(学級担任)の動き	中継, T3(補助者)の動き
<p>〈導入:より良い話し合い〉</p> <p>1. 合意形成に向けたより良い話し合いの重要性を理解する。(10)</p> <p>(1) アンケート①: 地域の避難所にペットを連れて行くことに賛成? 反対? →結果を見てみよう。なぜ賛成・反対?</p> <p>(2) 意見が分かれたときは、どうやって解決すればいいのだろう?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな意見が違うなあ ・ペットは家族で、連れて行けないと不安になるから賛成だよ ・アレルギーの人もいるから反対だよ ・多数決でいいんじゃないかな ・代表者が話し合えばいいよ ・多数決じゃなくて話し合いの方が、みんな納得できると思うよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒端末をネット接続させる。 ・ディスプレイの音声を調整する ・端末操作を支援 ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ →T1 に指名されたら発表 ・「話し合い」によってより多くの意見を反映させることが大切だと気付かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源・音声・カメラテストを実施 ・OP 動画の再生(開始 12 分前) ・端末操作を支援 ・アンケート結果を画面共有 ・指名された学級をスポットライト ・音声/映像状態のチェック
<p>2. 話し合いの方法には、対面とデジタルの2つがあることを知る。(15)</p> <p>(1) より多くの意見をどうすれば集めることができるかな? ①各教室で考えよう ②発表しよう ③デジタルで話し合う事例を動画で確かめよう</p> <p>(2) アンケート②: 皆さんの市では、デジタルと対面のどちらで話し合いをした方がいいと思いますか? A: デジタル B: まよっている C: 対面 →結果を見てみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場をつくれればいいよ ・意見箱を設置すればいいよ ・アンケートをとればいいんじゃないかな ・Google フォームが使えるよ ・住民がまちづくりについて合意形成をする場として Decidim が作られたんだ ・オンラインでコメントしたり議論を行ったりすることで、納得感が生まれてるね ・便利だから、デジタルがいいよ ・顔を見て話した方がいいから、対面がいいよ ・対面とデジタルのどちらにも良さがあるから、選べないよ ・A も B も C も選ばれているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には、気づきや感想をどんどん発表させ、必要に応じて板書する ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ →T1 に指名されたら発表 ・話し合いの方法には、対面とデジタルの両面があることを押さえる ・動画に注目させる ・端末操作を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・指名された学級をスポットライト ・【動画1】Decidim を再生 ・音声/映像状態のチェック ・端末操作を支援 ・アンケート結果を画面共有

【学習課題】 より良い話し合いはデジタルか、それとも対面か!?

<p><展開1:対面での話し合いについて></p> <p>3. 芦屋市の事例から、対面の話し合いの良さや課題を考える(20)</p> <p>(1) 市民と市長・教育長の「対話集会」の様子から、気づきを発表しよう</p> <p>①【資料1】から、場面を読み取ろう</p> <p>②動画を見て確認しよう</p> <p>(2)-A なぜ対面での話し合いを始めたのだろうか?(豊栄・志和・洞爺)★</p> <p>(2)-B 対面での話し合いの課題は何だろうか?(福富・河内・尾母)★</p> <p>(3) 芦屋市の担当者の方から話を聞こう。市民と市長・教育長の対話のどのような点に良さや課題を感じているのだろうか?どのような工夫をして運営しているのか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の集会所などを利用しているよ ・円になり直接意見交換を行っているよ ・スーツを着ている人が市長かな ・みんなからの意見を直接聞きたかったんだと思うよ ・直接話した方が、市民の人に納得してもらえるんじゃないかな ・多様な意見を一気に聞きにくい。「参加者がすごく少ないし、話ができる人が限られる ・政策に対して直接話を聞けると、市長は励みになるんだ ・わからないことを細かく聞くことができる良さがあるんだな 	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】を掲示する ・【資料1】の気づきをどんどん発表させる。必要に応じて板書する ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ→TIに指名されたら発表 ・動画に注目させる ・対面の良さについて注目させる。必要に応じて板書する。 ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ→TIに指名されたら発表 ・課題を考えさせ、クラス内で意見を共有する。必要に応じて板書する。 ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ→TIに指名されたら発表 ・中継に注目させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・指名された学級をスポットライト ・【動画2】芦屋市の対話集会を再生 ・音声/映像状態のチェック ・AIアプリの起動 ・音声収集→各学級の文字化・要約→見出しを付けて分類・表示 ・指名された学級をスポットライト ・【中継1】芦屋市役所 ・音声/映像状態のチェック
<p>4. 合意形成の過程で必要な視点をまとめる。(5)</p> <p>(1) 大学の専門家から、話を聞こう。</p> <p>(2) 話し合いの過程で必要な視点をまとめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一気に多様な意見を聞けるのが「効率」ということなんだ。例えば、何月何日に集まってね、と言って一気に意見を集められる点では「対話集会」は「効率」的だね。 ・誰もが不利益を被らない話し合いをめざすのが「公正」なんだ。例えば、顔の表情や感情を含めて表現できるという点では「対話集会」も「公正」だといえるね ・合意形成のために話し合いをするときは、「効率」「公正」の視点が大事なんだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料2】のカードを掲示する ・カードを黒板に貼りながら、適宜補足説明する ・「合意形成」するために話し合い、より多くの人の理解を得る過程で、「効率」「公正」の視点が重要であることを押さえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・草原先生にスポットライト ・音声/映像状態のチェック

【まとめ】 より良い話し合いのためには、「効率」と「公正」の視点が重要である。

---休憩---

<p><展開2:デジタルの話合いについて> 5. 加古川市の事例から, デジタルの話合いの良さや課題を考える(20)</p> <p>(1) Decidim がどんなものか確かめよう</p> <p>(2)-A 対面でも話合いはできるのに, なぜ Decidim を導入したのだろうか? (福富・河内・尾母)★</p> <p>(2)-B デジタルでの話合いの課題は何だろうか?(豊栄・志和・洞爺)★</p> <p>(3) (動画 3 を見て)加古川市の担当者の方はどのように Decidim の良さや課題を語っていたかな?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見をたくさん聞くことができるんだ ・市民同士の話合いができるんだ ・話合いの結果が分かるんだ ・できるだけ多くの人の意見を早く集めたかったんじゃないか ・だれでも, 簡単に意見を言うことができるからだよ ・時間を選ばない点もいいよね ・子どもでも政策に意見を言えるよ ・機械を使うのが苦手な人もいるよ ・きっとお年寄りもデジタルを使えないよ ・意見が伝わったのか分からないなあ ・良さとしては, やはりより多くの人が参加できることや, 相互にやり取りできるところに魅力があるんだ ・課題としては, 参加できるメリットをいかに感じさせるかといったことや, 政治に対して疑問や意見を持つこと(無謬性)があるんだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「効率」「公正」の視点を意識させながらデジタルの良さについて注目させる。必要に応じて板書する ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ→TIに指名されたら発表 ・課題を考えさせ, クラス内で意見を共有する。必要に応じて板書する ・発表できる生徒がいたらマイクの前へ→TIに指名されたら発表 ・動画に注目させる ・ホスト校のクラスの生徒は TIに指名されたら発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI アプリの起動 音声収集→各学級の文字化・要約 →見出しを付けて分類・表示 ・指名された学級をスポットライト ・音声/映像状態のチェック ・【動画 3】加古川市プレゼンを再生 ・指名された学級をスポットライト ・音声/映像状態のチェック
<p>6. 「効率」と「公正」の視点から意見をまとめ。(5)</p> <p>(1) 大学の専門家から, 話を聞こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や場所に関係なく, 多くの人が参加できることややり取りがオンライン上で一気にできるという点では「デジタル」は「効率」的だね ・集会所にいけないような病気の人や仕事が休めない人でも参加できる点では「公正」だといえるね 	<ul style="list-style-type: none"> ・「効率」「公正」の視点を再度振り返らせながら, 説明を補足する 	<ul style="list-style-type: none"> ・草原先生にスポットライト ・音声/映像状態のチェック

<p><展開3:より良い話合いのためには> 7. 自分のまちにとって、より良い話合いを考える(20) (1) 自分たちの住むまちにとって、どんな話合いをしたらいいかな?「話合いタイムライン」をつくってみよう! (設定する状況) 「みなさんのまちの避難所でペットを入れるべきかどうか」について、半年後までに、合意形成をする必要があります。 ①どの時期にどんな話合いをする?(12) ②みんなでスライドを見てみよう。(3) ③発表しよう!(デジタルのみ、対面のみ、デジタルと対面の組み合わせ)(5)</p>	<p><パターン1>組合せ型 (1~3か月)デジタルで意見収集 (4~5か月)直接対話をする (6か月目)市町で決定 <パターン2>組合せ型 (常時)デジタルで意見収集 (2か月ごとに)直接対話 (6か月目)市町で決定 <パターン3>デジタル型 (1~5か月)デジタルで意見収集 (6か月目)市町で決定 <パターン4>対面型 (1~6か月)第1回~第6回対話集会 (6か月目)市町で決定</p> <p>・私たちは、デジタルと対面を組み合わせで話し合うことを考えました。デジタルを使った方が効率的に意見を集めることができるので、デジタルで意見収集をします。ただ、デジタルが苦手な人もいますので、最終的には代表者の人で話し合っ意見をもとめたらよいと思います</p> <p>・私たちは、デジタルの良さを最大限に活用した方がよいと思ったので、デジタルだけで話し合うことを考えました。これからはデジタルの時代なので、良さをもっと活用した方がよいと思いました</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級を、1グループ4~5人に分ける ・代表生徒にスライド入力をさせる ・各グループのスライド作成を支援する。対面・デジタルの良さ・課題に着目させる ・時期と活動を設定した理由を発表できるようにさせる ・6か月目に、市町で決定することを共通の条件とする ・自分たちの住むまちの状況を想定しているグループがあれば、そのことをT1に伝える。(支援者に依頼可) ・デジタルと対面の良さや課題を考える際に、「効率」「公正」の視点を踏まえているグループを評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループのスライド作成を支援 ・スライドの閲覧を支援 ・指名された学級をスポットライト ・音声/映像状態のチェック
<p><終結:多様な社会での話合い>(5) (1) 専門家の草原先生の話を知ろう!(5)</p>	<p>・デジタルは良さもあるけれど、一部の詳しい人や、ネットをよく使う世代の意見ばかりが目立つようになってしまうこともあるから、「公正」の視点から考えると、100%良いとは言えないんだな</p> <p>・芦屋市は95000人、18.5km²でした。今回参加してくれた、徳之島町(9200人、105km²)や洞爺湖町(7800人、180km²)、東広島市(20万人、635km²)の市や町の規模や年齢層、広さによってより良い話合いの仕方は変わりますね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者や草原先生の評価に注目させる ・「デジタル」「対面」の良さや課題を考えるときに「効率」「公正」の視点を踏まえていることに着目させる ・適宜、板書や用語カード等を使い、視覚的な支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・草原先生にスポットライト ・音声/映像状態のチェック <p>・ギャラリービューでお別れ</p>

【まとめ】 デジタルと対面のどちらの方法も良さや課題があるね。効率と公正の観点を意識しながら、よりよい話合いをすることが大切だね。

6. 資料及び動画(資料は、大学から各学校に郵送します)

- ・【資料 1】 市民と市長・教育長の「対話集会」(A3, 横長, カラー)
- ・【資料 2】 「効率」「公正」のカード×2 セット(A5 (A4の半分で), 横長, カラー)
- ・【ワークシート】 ※各学級の必要に応じて使用してください
- ・【動画 1】 Decidim (加古川市)
- ・【動画 2】 市民ー市長・教育長対話(芦屋市)
- ・【動画 3】 加古川市プレゼン

7. 教具

- ・マグネット 20 個程度 … 資料を黒板に貼るために使います。
- ・生徒用端末 … 授業開始前までに、ポータルサイトに接続させてください。

8. 本時の位置づけと、授業後の展開例

- ・本時は、単元「現代社会の見方・考え方」のまとめ部分に位置します。また、現代社会の見方・考え方である「効率」「公正」を学ぶ部分に位置付けることも可能です。
- ・「効率」「公正」は議論が抽象的になってしまう場合があります。本時では、具体的な状況を設定することで、「効率」「公正」の視点をつかみやすくすることを意図しています。
- ・また、「公正」のなかでも比較的注目されづらいと思われる、「手続き的公正」(対話のプロセス)に焦点を当てることのできる単元となっています。
- ・本時の後には、「効率」「公正」の視点を活かして学習を進めると良いでしょう。例えば、学校や国など異なるコミュニティでの合意形成のあり方を考えるなどの展開が考えられます。
- ・また、デジタル・テクノロジーを活用することによって、子ども・若者にも政治参加の機会が開かれていく可能性があることを踏まえ、民主主義社会の形成者として取りうる行動の視野を広げていくことも考えられます。

9. AI アプリのプロンプト

・3(2):【ワーク A: 収音】

中学校 3 年生が、芦屋市が対面での話し合い(対話集会)を始めた背景と課題について話し合っています。豊栄中・志和中・洞爺中は「なぜ対話集会を始めたのか」という理由について、福富中・河内中・尾母中は「対話集会の中で見えてきた課題」について考えています。

➡追加分析: 子どもたちは芦屋市が対面での話し合い(対話集会)を始めた理由とその課題をどのように理解していますか? 見出しを付けて、3~5つずつ分類・整理してください。なお、中学校 3 年生が理解できる平易な文体で説明してください。

・5(2):【ワーク A: 収音】

中学校 3 年生が、加古川市がデジタル参加プラットフォーム(Decidim)を導入した背景とその課題について話し合っています。福富中・河内中・尾母中は「なぜデジタルの仕組み(Decidim)を使うようになったのか」について、豊栄中・志和中・洞爺中は「Decidim を使ってみたときに出てくる問題や課題」について考えています。

➡追加分析: 子どもたちは加古川市がデジタルでの話し合い(Decidim)を導入した理由とその課題をどのように理解していますか? 見出しを付けて、3~5つずつ分類・整理してください。なお、中学校 3 年生が理解できる平易な文体で説明してください。